

令和6年度部局アクションプラン

■記載内容

3.「全学的に重視する指標」の数値目標

■目次

- ・ 概要資料(P.2-4)
- ・ 令和6年度部局アクションプラン(数値目標)検証シート

頁 数	部 局 名	頁 数	部 局 名
P.5	人文学研究科・文学部・外国語学部	P.17	情報科学研究科
P.6	人間科学研究科・人間科学部	P.18	生命機能研究科
P.7	法学研究科・法学部	P.19	高等司法研究科
P.8	経済学研究科・経済学部	P.20	連合小児発達学研究科
P.9	理学研究科・理学部	P.21	微生物病研究所
P.10	医学系研究科・医学部	P.22	産業科学研究所
P.11	医学系研究科・医学部(保健学)	P.23	蛋白質研究所
P.12	歯学研究科・歯学部	P.24	社会経済研究所
P.13	薬学研究科・薬学部	P.25	接合科学研究所
P.14	工学研究科・工学部	P.26	レーザー科学研究所
P.15	基礎工学研究科・基礎工学部	P.27	核物理研究センター
P.16	国際公共政策研究科	P.28	サイバーメディアセンター

令和6年度部局アクションプラン(数値目標)の検証について

1. 制度について

第4期中期目標期間において、国立大学法人は、適正なガバナンスを確保するとともに、自律的な経営力を発揮することで、我が国全体の質の高い高等教育の維持・発展に寄与するという社会的役割を果たしていくことがさらに求められている。

また、将来ビジョンに基づく持続的かつ発展的な大学経営には、評価指標の設定、各施策の進捗管理、評価、資源配分という PDCA サイクルを実現することが不可欠である。

以上のような背景を踏まえ、第4期中期目標期間では、「OU マスタープラン2027」と「OU アクションプラン」の下、部局が定めた「年度計画・成果指標」に基づく自己点検・評価の結果を大学として確認・検証することで、大学の方向性に沿った取組を確認するとともに、部局がさらに強み・特色を発揮するための支援を行うこととし、これにより部局における PDCA サイクルを好循環させ、大学全体の教育研究活動等のさらなる発展に繋げることとしている。

部局アクションプランの内容

- ・ 部局の強み・特色を活かすための基本理念
- ・ OU マスタープラン 2027・OU アクションプランの達成に資する年度計画
- ・ 「全学的に重視する指標」の数値目標

対象指標

- ・ 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合
- ・ FWCI (Field-Weighted Citation Impact)
- ・ 競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額
- ・ 共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額
- ・ 外国人留学生数
- ・ 日本人海外派遣学生数
- ・ 外国籍教員の割合
- ・ 若手教員の割合

検証方法

指標の達成状況及び各部局で作成した取組状況等に対して、各指標の評定基準等に基づき、質保証総括オフィス及び各指標の担当理事にて検証を行った。

2. 「全学的に重視する指標」の数値目標に係る検証結果について

(1) 全体の検証結果

項目	指標	対象 部局数	評価				
			SS	S	A	B	C
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	12	0	7	3	2	0
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	15	0	8	5	2	0
研究	FWCI (Field-Weighted Citation Impact)	23	3	1	8	11	0
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	24	1	5	15	3	0
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	23	1	2	16	4	0
グローバル化	外国人留学生数	15	2	2	3	8	0
	日本人海外派遣学生数	15	1	4	7	3	0
業務運営	外国籍教員の割合	23	2	5	10	6	0
	若手教員の割合	24	1	4	10	9	0

<評価区分>

SS:目標の達成状況が非常に優れている S:目標の達成状況が優れている

A:目標の達成状況が良好である B:目標の達成状況が不十分である

C:目標の達成状況が不十分で、重大な改善事項がある

(2) 個別の検証結果(詳細は、別紙「令和6年度部局アクションプラン(数値目標)検証シート」のとおり)

○特筆すべき事項(SS評価)

区分名	指標名	部局名	評価理由
研究	FWCI (Field-Weighted Citation Impact)	医学系研究科・医学部	他部局に比して発表論文数が多い中、大学平均値を上回る実績を上げており、非常に高く評価できる。
		薬学研究科・薬学部	大学平均値を大きく上回っており、全学トップの実績値である点は非常に高く評価できる。
		産業科学研究所	大学平均値を大きく上回っており、全学トップクラスの実績値である点は非常に高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	核物理研究センター	目標を十分に上回っており、前年度からの増加率も全学トップクラスである点は、非常に高く評価できる。

区分名	指標名	部局名	評定理由
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	医学系研究科・医学部	産学連携クロスイノベーションイニシアティブの運営を通じて、組織連携・産学連携活動を推進し、全学的にも例年高い水準を維持しつつ目標値を上回っており、極めて高く評価できる。
グローバル化	外国人留学生数	情報科学研究科	5月1日実績の留学生数について高い割合で目標値を達成していることから判断した。5月1日実績の留学生数を維持し、通年実績も大きく増加させていることは評価できる。今後も短期留学生への広報活動によって、志願者増、留学生増に期待したい。
		連合小児発達学研究科	5月1日実績の留学生数について高い割合で目標値を達成しており、前年度実績からも大きく増加させていることから判断した。なお、通年実績も増加させていることは評価できる。海外拠点を活かした留学生獲得は優れており、今後も継続的な留学生獲得に期待したい。
	日本人海外派遣学生数	情報科学研究科	昨年度から海外派遣学生数を大きく増やし、目標値の2倍で達成したことを高く評価し、判断した。学生派遣に明確な目標を持ち、海外渡航費用負担の補助などを行う制度は優れている。
業務運営	外国籍教員の割合	経済学研究科・経済学部	目標値を大きく上回る実績を上げており、目標比が全学トップクラスの実績値であることは、高く評価できる。
		薬学研究科・薬学部	目標値を大きく上回る実績を上げており、目標比が全学トップの実績値であることは、極めて高く評価できる。
	若手教員の割合	法学研究科・法学部	目標を十分に上回っており、前年度からの増加率も全学トップクラスである点が、非常に高く評価できる。

3. 総括

大学として重視する事項への達成度を定量的な面から評価し、各組織の取組が大学の方向性に沿っているかを確認することができた。

次年度についても、引き続き本取組を実施し、大学全体の教育研究活動等のさらなる発展に繋げることとしている。

部局名:人文学研究科・文学部・外国語学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(外国語学部)	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、全学的に見て、高い水準を維持している点は高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(文学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、実績値が継続的に増加しており、高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、実績値が継続的に増加しており、高く評価できる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、TOP10%論文割合が R4・R5 から R6 にかけて増加しており、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5月1日実績の留学生数については減少しており、目標値を達成していないものの、通年実績は大きく増加させており、評価できる。また、広報活動の展開、協定校との連携、ユーロカルチャープログラムなどの活動が認められ、今後の向上に期待する。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である 目標値をほぼ達成していることから判断した。奨学金の応募の推奨などを通じ、海外派遣学生数を増加させたことは評価できる。
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をやや下回っているが、国際公募、特任教員の雇用、クロスアポイントメント制度の活用などの取り組みを行っており、評価できる。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、評価できる。

部局名:人間科学研究科・人間科学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、実績値が継続的に増加している点は高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	B	目標の達成状況が不十分である 実績値は目標を下回り、R4以降は減少傾向が続いている点が懸念される。英語力向上セミナーの参加者数も定員を大きく下回っており、大学院生への効果的な働きかけを含め、今後の取組の改善が強く望まれる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、様々な対策に取り組み、今後の努力に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、より上位の科研への応募促進の取組や複数応募の取組を進め、今後の努力に期待する。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5月1日実績の留学生数について目標値を達成していないことから判断した。5月1日実績の留学生数は前年度から減少させているが、通年実績は大きく増加させている。
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を達成し、昨年度からも大きく増加させていることから判断した。
業務運営	外国籍教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、改善に向けた体制を整備する予定であり、今後の向上に期待する。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、人事計画委員会での検討を含め、今後の努力に期待する。

部局名:法学研究科・法学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、実績値が継続的に増加している点は高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 全学的にも例年高い水準を維持しており、目標値も上回っていることは、高く評価できる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 論文数は R4 以降増加しており、今後の対策と向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 法学部創立 70 周年記念事業のための積極的な寄附金募集、研究科長による同窓会への訪問等の取組が行われており、評価できる。 一方で、周年行事であるため毎年度の実施は難しいことは理解でき、今後は定常的な寄附への移行や、学内支援体制の積極活用による共同研究・受託研究の開発が期待される。
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5 月 1 日実績の留学生数について目標値を達成していないことから判断した。5 月 1 日実績の留学生数は減少しているが、通年実績は大きく増加させており、評価できる。英語のみで課程を修了することが可能なプログラムの取り組みは評価できるが、出願者が少ない理由を分析して次に活かしていただきたい。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である
業務運営	外国籍教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、新規採用の際に外国籍教員の割合を増やすように取り組む予定であり、今後の向上に期待する。外国籍教員に対するクロスアポイントメント制度の活用も検討されたい。
	若手教員の割合	SS	目標の達成状況が非常に優れている 目標を十分に上回っており、前年度からの増加率も全学トップクラスである点が、非常に高く評価できる。

部局名:経済学研究科・経済学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、実績値が継続的に増加している点は高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 全学的にも例年高い水準を維持しており、目標値も上回っていることは、高く評価できる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である 大学平均値をわずかに下回っているが、前年度実績を上回り、TOP10%論文割合もR4以降、着実に増加しており、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、大型科研応募へのインセンティブ制度の運用など、積極的な取組を継続して行っており、評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である 実績値が目標値に達していないことから判断した。新たな共同研究の提案、企業や社会との連携強化、寄附金を得るための広報活動の工夫、また学内の支援体制の活用などを通じて、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5月1日実績の留学生数について目標値を達成していないことから判断した。ただし、5月1日実績の留学生数はほぼ同数で、通年実績は増加させており、評価できる。広報活動の展開によって、留学生を呼び込む方策に期待する。
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を達成し、昨年度からも大きく増加させていることから判断した。
業務運営	外国籍教員の割合	SS	目標の達成状況が非常に優れている 目標値を大きく上回る実績を上げており、目標比が全学トップクラスの実績値であることは、高く評価できる。
	若手教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。

部局名:理学研究科・理学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である 目標値には達していないものの、英語力向上に向けた取組を継続的に実施しており、実績値が継続的に増加している点は評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回り、R5 実績からも減少している点は懸念される。大学院生へのより効果的な働きかけを含め、今後の取組の改善が強く望まれる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である 大学平均値をわずかに下回っているが、TOP10%論文割合は 10%程度であり、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、研究推進部による大型科研費アドバイザー制度の活用や、理学研究科独自の萌芽的研究や長期的課題への支援制度の導入による、今後の向上に期待する。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である 5 月 1 日実績の留学生数について目標値を達成していないが、International Summer Program などの各種プログラムの提供、ダブル・ディグリー・プログラムの推進、RA 経費補助実績は優れた取り組みであることから判断した。通年実績は大きく増加させていることは評価できる。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である 目標値をほぼ達成しており、優れた取り組みがあることから判断した。理学研究科海外留学奨学金の提供をはじめとした各種プログラムや、シンポジウムやイベントの開催などを、学生の国際移動に結び付ける取り組みとして引き続き展開していただき、来年度に期待したい。
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をやや下回っているが、外国籍教員に対するクロスアポイントメント制度の利用や、招聘教員制度などを通じて外国籍教員と本学との接点を強化しており、評価できる。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、任期の廃止や若手研究環境の改善などの取組を進め、今後の努力に期待する。

部局名:医学系研究科・医学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 全学的にも例年高い水準を維持しており、目標値も上回っていることは、高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、実績値が継続的に増加している点は、高く評価できる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	SS	目標の達成状況が非常に優れている 他部局に比して発表論文数が多い中、大学平均値を上回る実績を上げており、非常に高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	SS	目標の達成状況が非常に優れている 産学連携クロスイノベーションイニシアティブの運営を通じて、組織連携・産学連携活動を推進し、全学的にも例年高い水準を維持しつつ目標値を上回っており、極めて高く評価できる。
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5月1日実績の留学生数について目標値を達成していないことから判断した。ただし、5月1日実績の留学生数、通年実績ともに増加させており、評価できる。
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を達成し、昨年度からも大きく増加させていることから判断した。
業務運営	外国籍教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、より積極的な国際公募を行う計画であり、今後の向上に期待する。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、部局特有の事情は理解できる。しかし若手が活躍できる環境構築に関する取組を進め、今後の努力に期待する。

部局名:医学系研究科・医学部(保健学)

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、TOEFL-ITP 試験、TOEIC-IP 試験の無料提供を拡充するなどの取組を行っており、今後の向上に期待する。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、TOEFL-ITP 試験、TOEIC-IP 試験の無料提供を拡充するなどの取組を行い、R4 実績を上回っており、今後の向上に期待する。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	S	目標の達成状況が優れている 大学平均値を上回る実績を上げており、高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、前年度より増加しており、今後の努力に期待する。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	S	目標の達成状況が優れている 5 月 1 日実績の留学生数について目標値を達成しており、前年度実績からも大きく増加させていることから判断した。なお、通年実績も極めて大きく増加させていることは評価できる。
	日本人海外派遣件数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を達成していないことから判断した。海外派遣学生数を大きく減らしているが、ダブル・ディグリー・プログラムの実施や学術交流による留学促進策を取っていることから、来年の向上に期待したい。
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、令和 3 年度に比べ、外国籍教員の割合、人数とも増加しており、今後の向上に期待する。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、総長裁量ポストや退職教授による空きポストでの若手教員の雇用などによる、今後の努力に期待する。

部局名:歯学研究科・歯学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、実績値が継続的に増加しており、高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、実績値が継続的に増加しており、高く評価できる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である 大学平均値をわずかに下回っているが、前年度実績を上回り、TOP10%論文割合も R3以降、着実に増加しており、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 獲得件数・金額ともに目標値を概ね達成しており、評価できる。今後の大型資金課題の獲得に期待する。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	S	目標の達成状況が優れている 5月1日実績の留学生数について目標値を達成しており、前年度実績からも大きく増加させていることから判断した。なお、通年実績も大きく増加させていることは評価できる。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である 昨年度から海外派遣学生数を減じているが、目標値は2倍の人数で達成している。
業務運営	外国籍教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回る実績を上げ、割合・人数のいずれも令和3年度より増加しており、高く評価できる。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、若手教員の雇用やクロアポの取組を進め、今後の努力に期待する。

部局名:薬学研究科・薬学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、実績値が継続的に増加しており、高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 全学的にも例年高い水準を維持しており、目標値もほぼ達成していることは、高く評価できる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	SS	目標の達成状況が非常に優れている 大学平均値を大きく上回っており、全学トップの実績値である点は非常に高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である R4～R6 年度において実績値が目標値に達しておらず B 評価が続いているものの、目標値の達成度(実績値/目標値)については改善がみられることから、左記の評価とした。 研究科内の周知徹底、産学官共創体制の強化、学内の支援体制の活用などを通じて、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である 5 月 1 日実績の留学生数について目標値を達成していることから判断した。なお、5 月 1 日実績の留学生数および通年実績も増加させていることは評価できる。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である 目標値をほぼ達成しており、優れた取り組みがあることから判断した。ダブル・ディグリー・プログラムの引き続きの提供等によって来年度に期待したい。
業務運営	外国籍教員の割合	SS	目標の達成状況が非常に優れている 目標値を大きく上回る実績を上げており、目標比が全学トップの実績値であることは、極めて高く評価できる。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、前年度から増加しており、評価できる。

部局名:工学研究科・工学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である 目標値には達していないものの、英語力向上に向けた取組を継続的に実施しており、実績値が継続的に増加している点は評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	A	目標の達成状況が良好である 目標値は下回っているものの、全学的には相対的に高い水準を維持しており、今後のさらなる取組の推進に期待する。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、様々な対策に取り組んでおり、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、退職教授を「研究コンシェルジュ」として迎えるなど、積極的な取組を継続して行っており、評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	S	目標の達成状況が優れている 社会連携室のサポート体制に加え、研究科専属のファンドレイザーやフューチャーイノベーションセンター経営企画領域の活動により、全学的にも例年高い水準を維持しつつ目標値を上回っており、高く評価できる。
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5月1日実績の留学生数について目標値を達成していないことから判断した。5月1日実績の留学生数は減少しているが、通年実績は大きく増加させており、評価できる。ほぼすべての専攻への英語コースの設置、ダブル・ディグリー・プログラムの展開、国際交流センターの活動など多くの積極的な取り組みを実施していることは優れており、安全保障上の理由等をクリアしつつ、正規生の獲得に期待したい。
	日本人海外派遣件数	B	目標の達成状況が不十分である 昨年度から海外派遣学生数を減らしており、目標値を達成していないことから判断した。国際交流推進センターなどの取り組みを引き続き展開していただき、来年度に期待したい。
業務運営	外国籍教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回る実績を上げ、割合・人数のいずれも令和3年度より増加しており、高く評価できる。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 令和3年度の高い水準を維持するという部局の方針に沿っており、評価できる。

部局名:基礎工学研究科・基礎工学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、実績値が継続的に増加しており、今後の更なる取組の推進に期待する。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	A	目標の達成状況が良好である 目標値は下回っているものの、全学的には相対的に高い水準を維持しており、今後のさらなる取組の推進に期待する。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、様々な対策に取り組み、今後の努力に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5月1日実績の留学生数について目標値を達成していないことから判断した。5月1日実績の留学生数はほぼ同数であるが、通年実績は大きく増加させており、評価できる。各種プログラム及びダブル・ディグリー・プログラムの展開は優れており、正規生の獲得に期待したい。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である
業務運営	外国籍教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回る実績を上げ、割合・人数のいずれも令和3年度より増加しており、高く評価できる。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、若手交流会や若手に向けた連絡会など、積極的な取組を継続して行っており、評価できる。

部局名:国際公共政策研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、全学的にも引き続きトップ水準にあり、当該点は高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、全学的にも引き続きトップ水準にあり、当該点は高く評価できる。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、様々な対策に取り組み、今後の努力に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、全教員に申請を促し、未申請者には理由書の提出を求めることで申請率向上に努めている取組を進めている。また、前年度より大幅に増加しており、評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である 5月1日実績の留学生数について目標値を達成していないが、留学生比率が5割を超えており、それ自体が優れた取り組みであると認めて判断した。なお、5月1日実績の留学生数を維持し、通年実績は増加させていることも評価できる。引き続き質の高い学生を獲得していただきたい。
	日本人海外派遣件数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を達成していないことから判断した。留学生が多いので外に出る感覚になりづらい特殊事情が考えられるが、海外に出ることが推奨される分野でもあり、ダブル・ディグリー・プログラムなどの取り組みの成果に期待したい。
業務運営	外国籍教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を大きく下回っており、今後の対策と向上に期待する。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているものの、テニユアトラック制度の活用や授業・学内行政負担の軽減による研究環境の整備など、積極的な取組を行うことで、高い水準を維持しており、評価できる。

部局名:情報科学研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、実績値が継続的に増加しており、高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である 大学平均値をわずかに下回っているが、TOP10%論文割合は 10%以上であり、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、若手研究者支援や分野横断的な連携強化に加え、令和 7 年度開始予定のウェビナーによる国際発信など、多面的な取組を進めている点は評価できる。国際共同研究資金の獲得拡大にも期待する。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	SS	目標の達成状況が非常に優れている 5 月 1 日実績の留学生数について高い割合で目標値を達成していることから判断した。5 月 1 日実績の留学生数を維持し、通年実績も大きく増加させていることは評価できる。今後も短期留学生への広報活動によって、志願者増、留学生増に期待したい。
	日本人海外派遣件数	SS	目標の達成状況が非常に優れている 昨年度から海外派遣学生数を大きく増やし、目標値の 2 倍で達成したことを高く評価し、判断した。学生派遣に明確な目標を持ち、海外渡航費用負担の補助などを行う制度は優れている。
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、理想的な割合を維持しており、評価できる。

部局名:生命機能研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である 目標値には達していないものの、全学的に見て高い水準を維持しており、実績値が継続的に増加している点は評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		目標の達成状況が良好である
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 5月1日実績の留学生数について目標値を達成していないことから判断した。5月1日実績の留学生数は増加し、通年実績は大きく増加させており、評価できる。オンライン説明会、オンライン入試などの展開は優れており、正規生の獲得に期待したい。
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 昨年度から海外派遣学生数を大きく増やし、目標値の3倍で達成したことを高く評価して判断した。
業務運営	外国籍教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、クロスアポイントメント制度の活用などの取り組み検討中であり、今後の向上に期待する。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である

部局名: 高等司法研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、前年度からの大幅な増加が見られ、高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額		
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額		
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標を大きく上回っているのに加え、前年度からの増加がみられ、高く評価できる。
	若手教員の割合		

部局名: 連合小児発達学研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、実績値が継続的に増加しており、高く評価できる。
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、原因の精査と研究科内での情報共有を進め、今後の向上に期待する。
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	S	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が非常に優れている 5月1日実績の留学生数について高い割合で目標値を達成しており、前年度実績からも大きく増加させていることから判断した。なお、通年実績も増加させていることは評価できる。海外拠点を活かした留学生獲得は優れており、今後も継続的な留学生獲得に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	SS	目標の達成状況が良好である
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、部局特有の事情は理解できる。基礎研究を行う若手が活躍できる環境作りの取組を進め、今後の努力に期待する。
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をやや下回っているが、種々の取り組みにより令和3年度実績から改善が見られ、評価できる。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、部局特有の事情は理解できる。基礎研究を行う若手が活躍できる環境作りの取組を進め、今後の努力に期待する。

部局名:微生物病研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、事務部による応募書類作成・修正のサポートや研究室の積極的な公募案件への応募により、科研費以外の競争的資金獲得が着実に増加している。また、前年度から増加しており、評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回る実績を上げ、割合・人数のいずれも令和3年度より増加しており、高く評価できる。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、前年度より増加している。優秀な若手採用の取組を進め、今後の努力に期待する。

部局名:産業科学研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	SS	目標の達成状況が非常に優れている 大学平均値を大きく上回っており、全学トップクラスの実績値である点は非常に高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、戦略室の URA 体制強化などの取組を進め、今後の努力に期待する。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	S	目標の達成状況が優れている 受入金額の合計が目標値を大きく上回っており、評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回る実績を上げ、割合・人数のいずれも令和3年度より増加しており、高く評価できる。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値は下回っているものの、若手 PI によるプロジェクト研究分野の設置など、若手教員支援に積極的に取り組むことで、高い水準を維持しており、評価できる。

部局名:蛋白質研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である 大学平均値をわずかに下回っているが、TOP10%論文割合は10%程度であり、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	S	目標の達成状況が優れている 目標を達成しており、前年度からも増加していることが高く評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である 実績値が目標値に達していないことから判断した。企業との共同研究・受託研究を促進させるためのワークショップ開催などの取り組みは評価でき、学内の支援体制の活用などを通じて今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、中長期的な人材戦略の策定や若手教員枠の計画的公募、研究支援体制の強化等、今後の努力に期待する。

部局名:社会経済研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、様々な対策に取り組み、今後の努力に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をやや下回っているが、令和 3 年度実績から大幅な改善が見られる上に 30% 台の高い数値を維持しており、評価できる。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているものの、国際公募の実施や若手教員の積極的な採用活動など、着実な取組を継続して行うことで高い水準を維持しており、評価できる。

部局名:接合科学研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、原因の精査と対策を進め、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、若手研究者助成事業のリニューアルや科研費大型種目への高評価点設定、URA による応募支援強化など、多角的な取組が成果増加に寄与している点は評価できる。また、前年度から大幅に増加している点が、評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 東京セミナーや産学連携シンポジウム等、多様な機会を活用して研究シーズ・研究成果の発信を継続するとともに、令和6年度に開始した部局主催の定例記者発表会の活動も評価できる。さらに、附属多次元造形研究センター1号館のオープンラボに民間企業を誘致し、産学連携拠点を形成していることも、将来を見据えた戦略的な取り組みとして評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、種々の取り組みにより 20%台の高い数値を維持しており、評価できる。
	若手教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、高い水準を維持しており、評価できる。

部局名:レーザー科学研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、様々な対策に取り組み、今後の努力に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 獲得金額は目標値を大きく上回って達成しており、評価できる。シニア教員による科研費採択指導の取組を進め、若手教員の採択率増加を図ることで、今後の獲得件数増加に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である 実績値が目標値に達していないことから判断した。共同研究部門の新設に向けた取組、各種法人との連携によるフォーラムを活用した産学連携活動は評価できる。これらの活動の進展や学内の支援体制の活用などを通じて今後の更なる向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値をやや下回っているが、種々の積極的な取り組みを継続して行っており、評価できる。
	若手教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。

部局名:核物理研究センター

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	A	目標の達成状況が良好である
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	SS	目標の達成状況が非常に優れている 目標を十分に上回っており、前年度からの増加率も全学トップクラスである点は、非常に高く評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、令和 7 年度中に外国籍教員の割合は令和 5 年度水準に回復する見込みであり、今後の向上に期待する。
	若手教員の割合	B	目標の達成状況が不十分である 目標値をわずかに下回っているが、前年度から増加しており、今後の努力に期待する。

部局名:サイバーメディアセンター

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に示す外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	FWCI(Field-Weighted Citation Impact)	B	目標の達成状況が不十分である 大学平均値を下回っているが、原因の精査と対策を進め、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っており、かつ、前年度からも減少している。今後は基礎研究への戦略的支援の取組を進め、なお一層の努力を期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究・寄附金・学術相談の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 各教員における産学連携のさらなる取組強化により、共同研究・受託研究を新規で獲得するとともに、目標値を達成した点は評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		
業務運営	外国籍教員の割合	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、令和 3 年度に比べ、外国籍教員の割合、人数とも増加しており、今後の向上に期待する。
	若手教員の割合	S	目標の達成状況が優れている 目標を大きく上回っており、前年度からの増加率も全学トップクラスである点が、高く評価できる。